

# 慈明院寺報七月号

## 餓鬼飯（がきめし）の功德



「餓鬼飯（がきめし）持つてきてくれ。」高野山で修行中に兄弟子から頼まれた一言である。何とも不味（まず）そうな名前であるが、これはお盆に帰られる仏様を迎える為のお供えである。ナスやカボチャをさいの目に切り、洗ったお米とまぜたモノである。高野山では「まごじや」とか「水の実」とも呼ぶらしいが、修行中の小僧さんはみんな「餓鬼飯」の通称（つうしょう）で呼んでいる。

（写真のお碗の供物が餓鬼飯）

この餓鬼飯をフキやイタドリといった幅広の葉っぱにのせて、お墓にお供えして仏様をお迎えするのである。お墓があるだけこの餓鬼飯を供える。高野山・奥の院には2kmにわたる墓地に二十万基以上のお墓がある。お迎えする仏様のお墓を間違わないように、線香と高野槇、餓鬼飯を持つて奥の院中を走り回る。

お釈迦様の十大弟子の中で「多聞（たもん）（ききかた）第一」といわれた阿難尊者（あなんそんじや）という僧侶がおられた。ある日、阿難尊者が瞑想していると突然「焰口（えんく）」という餓鬼が現れた。餓鬼が言うには「お前は三日後に死んで、私のように醜（みにく）い餓鬼に生まれかわるだろう。」阿難尊者は驚き、どうすれば良いかを餓鬼に問うた。

すると餓鬼が言うには「われら餓鬼道に堕（お）ちた苦の衆生、全ての困苦（こんく）の衆生に飲食（ほじ）を施すならば、餓鬼に生まれかわる苦しみから逃れられる。」という。しかし、阿難尊者は修行僧（ひじゆ）・・・施しをしようにもお金がなかった。そこでお釈迦様より「観音菩薩（くわんおん）の秘呪（ひじゆ）」とされる一椀（いちわん）の食物を、無量（むりやう）の食物に増やすという陀羅尼（だらに）（呪文（じゆもん））を授（さず）かり、全ての餓鬼に施しをされて長命（ちやうめい）を全うしたとされる。餓鬼飯（がきめし）は施（ほ）しの心を込めた一椀の供養そのものである。住職 合掌

## お施餓鬼 灯籠供養法会のご案内（別紙参照）

来る令和四年 七月三十日（土曜日）夕方七時より

\*紙灯籠（かみとうろう）に亡くなった仏様の戒名（かいみょう）や、先祖供養（きんしよ）を謹書（きんしよ）して灯籠（とうろう）に火（とも）を点し夕闇（ゆふやみ）の中、数人の僧侶（じきやう）で読経（よきやう）してご供養（くうやう）を勤めます。どなたでもご参拝（さんぱい）頂けます。（マスク着用でご参拝賜ります様、お願い申し上げます。）

\*ご供養をお申し込み頂いた紙灯籠（かみとうろう）は、お盆（おん）（八月十五日）まで本堂に安置（あんじ）してご供養致します。またお盆（おん）の灯り（あか）としてお持ち帰り頂いても構（かま）いません。法会終了後、希望される方は灯籠（とうろう）をお渡しします。

## お盆のお参りについて

各檀家様には、七月中旬に「お盆参りのお知らせ」をお送りさせて頂きます。お忙しい時期とは存じますが、宜しくお願い申し上げます。随時、お参りについてのお問い合わせ、変更等承ります。 住職 九拝

## 住職のひとりごと

暑中お見舞い申し上げます。雨が少なく水不足が心配な今日この頃・・・節電・節水、しかし命を守る為、冷房をガマンしない！十分水分をとる！何事も無理をせず、極端にかたよらず、皆様お身体ご自愛下さい。合掌



じみよういん

慈明院（千ハ一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一一〇）

TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五

よしずみだいじ

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四